



2015 紀の国わかやま国体  
第70回国民体育大会 躍動と歓喜、そして絆

2015 紀の国わかやま大会  
第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆



# Team Wakayama News 【第11号：平成26年6月6日発行】

## 紀の国わかやま国体の先陣を切る アイスホッケー競技が氷上で熱い練習!!

国民体育大会の『総合成績』は、秋に開催される「本大会」とその前の冬に開催される「冬季大会」の競技得点の合計で決定されます。国体を開催する地元開催県では、40競技中39競技が近畿ブロック予選を免除され、本国体への出場権が得られますが、1競技だけ近畿ブロック予選への出場が義務付けられている競技があります。それが、アイスホッケー競技です。

アイスホッケー競技の第70回国民体育大会近畿ブロック大会は、今年の11月に迫っています。あと半年、選手の皆さんは「近畿ブロック大会突破！」を目標に、仕事を終えた深夜、近隣府県のアイスリンクに集まり、個人練習やチーム練習に汗を流しています。

「今年が最後のチャンス。ゼロからのスタートで和歌山ができることを精一杯やってきた。最大限の補強もできた。」と力強く語ってくれたのは、約4年前からチーム作りに奔走してきた津田兼司監督（株式会社サンライズ）。しばらく近畿ブロック大会に出場できていなかった和歌山県チームを2011年に再建した立役者でもあります。「ユニフォームも揃わない状態で、和歌山県チームOBの家を一軒ずつ回り、倉庫の中のユニフォームを貸してもらって出場した。」と当時の様子を話してくれました。

昨年か月に1度、U-18全日本女子チームの監督を務める藤澤悌史コーチを招へいし、「チームの練習内容が劇的に変わった。世界最新・最前線の練習ができている。」（津田監督）とチーム力も高まってきています。

**11月に開催される近畿ブロック大会は、滋賀県で開催されます。アウェイである滋賀県立アイスアリーナですが、和歌山県の応援団でいっぱいにする計画を立てています。みんなで和歌山県チームにエールを送りましょう!!**



藤澤コーチの指導に熱心に耳を傾ける和歌山県チーム

### 【藤澤コーチ（U-18全日本女子チーム監督）】のコメント

今年の和歌山県チームは、若い選手が新たに加入し、チームとしての勢いがあります。今日（5月20日）の練習では、チームの課題である得点力不足を強化するため、実戦を想定したパターン練習を数多く行いました。

守りについては安定しているので、無駄な失点と細かいミスが減らすことが、近畿ブロック大会突破のカギになります。

南国である和歌山県民のみならずには、なかなか馴染みのないウィンタースポーツですが、氷上の格闘技といわれるアイスホッケーを、是非会場に来て観戦してみてください。



| 日時                     | 競技名     | 大会名等                       | 場所          | 主な選手名(所属)   | トピックス  |
|------------------------|---------|----------------------------|-------------|---|--|
| 11月30日(日)～<br>12月7日(日) | アイスホッケー | 第70回国民体育大会冬季大会<br>近畿ブロック大会 | 滋賀県立アイスアリーナ | 川口 鉄平<br>(株式会社サンライズ)<br>久守 貴也<br>(株式会社サンライズ)<br>細越 渉平<br>(株式会社サンライズ)<br>若原 翼<br>(株式会社サンライズ)<br>安東 努<br>(東燃ゼネラル石油(株))<br>清水 力<br>(和歌山県庁)<br>宮本 学<br>(和歌山県庁)<br>今村 高志<br>(紀伊コスモス支援学校) | 第70回国民体育大会(紀の国わかやま国体)で唯一、近畿ブロック大会が開催されるアイスホッケー競技!!<br>近畿ブロック予選を突破して、本国体での入賞を目指します。 |